

## 農村プロデューサー養成講座 Q&A

### (Ⅰ. 全般)

1. なぜ、入門コースと実践コースがあるのか。
2. 必要な機器は何か。
3. 受講料はいくらかかるのか。

### (Ⅱ. 入門コースについて)

1. 入門コースの特色は何か。
2. 入門コースを受講するためにはどうすればよいか。
3. 誰でも受講できるのか。
4. 人数制限はあるのか。
5. 後日、再放送されるのか。
6. 後日、講演者と連絡をとることは可能か。
7. 実践コースを受講する前に入門コースを受講することは必須か。

### (Ⅲ. 実践コースについて)

1. 実践コースの特色は何か。
2. 実践コースを受講するためにはどうすればよいか。
3. 平日開催か。土日開催か。
4. 対面講義の会場は、なぜ、仙台市・岡山市・熊本市なのか。
5. 同一市町村から複数人応募してもよいのか。
6. 民間人も応募できるのか。
7. 講師が2名いるが、会場毎に講師が異なるということか。
8. 「実例を基にした模擬演習等」とは、どういうことか。
9. 「研修生自らの実践活動」とは、どういうことか。
10. 実践活動は、必ず実施しなければいけないのか。
11. 実践活動は、職場の同僚等と一緒に取り組んでもよいのか。
12. 受講生が一堂に会する場はあるのか。
13. 実践コース(3)でともに活動する同僚等も、実践コース(1)のオンライン講義を受けることができるか。

### (Ⅳ. ネットワークについて)

1. 料金はかかるのか。
2. どのようなスタイルを考えているのか。
3. 講師が無料で相談にのってくれるのか。

## (I. 全般)

### 1. なぜ、入門コースと実践コースがあるのか。

本講座の肝（キモ）は、知識のインプットだけではなく実践活動のフォローまでを行う実践コースになります。しかしながら、「本格的な地域づくり研修への参加には、ハードルが高い」などと思われる方に対しても幅広くリーチできないかを検討し、以下の方でも気軽に参加できる入門コースを設けました。

- ・実践コースへの参加までいかなくとも、地域づくりに関する取組に関心がある方
- ・これまで地域づくりにあまり関心をお持ちでなかった方

なお、入門コースも、地域づくりに長く携わっている方でも新たな発見が得られ、満足いただける内容としたいと考えています。

### 2. 必要な機器は何か。

オンライン動画が視聴できるパソコンやスマートフォンなど、通信機器とインターネットの通信環境が必要です。

### 3. 受講料はいくらかかるのか。

受講料は無料です。

なお、通信費、研修会場までの旅費・宿泊費・食費などは別途必要です。

## (II. 入門コースについて)

### 1. 入門コースの特色は何か。

地域づくりに関する最先端のオンライン講演を、チャットでの双方向のやりとりを交えてライブで受けることにより、地域づくりの楽しさを体感することができます。なお、入門コースの受講について、修了証などは発行されません。

### 2. 入門コースを受講するためにはどうすればよいか。

農林水産省ホームページ内の専用サイトで、当日の開演時間前に、URL を公開する予定です。そこをクリックしていただければ、ミーティングルームに入室できます。システムは、Webex を利用する予定です。

### 3. 誰でも受講できるのか。

地域づくりに関心のある者が幅広く参加可能です。なお、実践コースへの参加は必須ではありません。

### 4. 人数制限はあるのか。

ありません。ただし、システム上の制約があれば、その範囲内とします。

### 5. 後日、再放送されるのか。

特別な場合を除き、再放送の予定はありません。

### 6. 後日、講演者と連絡をとることは可能か。

講演者によっては、可能な場合もあります。詳細はホームページでお知らせします。

### 7. 実践コースを受講する前に入門コースを受講することは必須か。

入門コースの受講を必須とはしませんが、実践コースでの学習をより効果的なものとするため、受講していただくことをお勧めします。

なお、実践コース受講申込書には、「入門コースの受講状況の確認」欄を設けており、印象に残った入門コースの内容を記載頂くこととしております。記載内容は、選考に当たって考慮させていただきます。

### (Ⅲ. 実践コースについて)

#### 1. 実践コースの特色は何か。

研修の中で、単に知識をインプットするだけではなく、実際の地域での実践活動について講師からの助言を得ることができます。さらに、実践コースの修了生、講師陣をつなぐネットワークを構築し、全国各地の人材同士で悩みや情報を共有し、支え合いながら活動できる環境を整備することとしています。このように、研修及び研修修了後を通じて地域づくり活動のサポートを得ることができます。

なお、実践コースの修了生には、民間の方も含め、「修了証」を配布する予定です。公的な資格・認定ということではありませんが、本講座を修了した「農村プロデューサー」ということで、名刺等に表記していただくことも可能です。

#### 2. 実践コースを受講するためにはどうすればよいか。

申込み手順は以下のとおりです。

① 農水省ホームページから、実践コース受講申込書（Word）をダウンロード。

② 必要事項を記載の上、期限までに、ホームページ上のアドレス宛に提出。

なお、募集開始は6月下旬を予定。詳細はホームページでお知らせします。

#### 3. 平日開催か。土日開催か。

実践コース（1）・（2）・（3）とも平日日中の開催予定です。ホームページで詳細をお知らせする予定です。

#### 4. 対面講義の会場は、なぜ、仙台市・岡山市・熊本市なのか。

現場を重視した研修とするため、地方開催としました。

令和3年度の会場は、全国7つある地方農政局の会議室を利用することとし、その中から、位置的なバランス等を考慮し、3都市を選定しました。次年度以降、会場数を増やすことを検討します。

#### 5. 同一市町村から複数人応募してもよいのか。

応募自体は可能ですが、できるだけ多くの市町村から選定することを優先し、人数を調整させていただく場合があります。

なお、例えば、市町村職員とその地域の地域おこし協力隊員とが一緒に応募することも可能です。

#### 6. 民間人も応募できるのか。

可能です。ただし、地方自治体と連携して地域づくり活動を実践していただける方を優先することとし、関係地方自治体からの推薦状(様式不問)など、地方自治体と連携して取り組んでいることが分かる書類の添付がある方については、選考に当たって考慮させていただくことがあります。

#### 7. 講師が2名いるが、会場毎に講師が異なるということか。

「(1) オンライン講義」は、1人又は2人が担当する予定です。

「(2) 実例を基にした模擬演習等(対面講義)」は、3会場それぞれに、2人の講師が参加する予定です。

「(3) 研修生自らの実践活動」は、講師の1人又は2人が担当する予定です。

#### 8. 「実例を基にした模擬演習等」とは、どういうことか。

「(2) 実例を基にした模擬演習等(対面講義)」は、実在する地域を題材とした演習を通して、農村プロデューサーとしての視点と実践能力を養うことを目的にしていま

す。このため、地域づくりを開始した当時の状況、取組のきっかけ、今までのプロセス、そして現状把握と、生のデータを使った模擬演習となります。

進め方のイメージは以下のとおりです。

- ① 講師が研修生に対し、事例に基づいた具体的な現状と課題を提示します。  
例「A 集落では、人口減少と高齢化により、限界集落の危機を迎えていました。一方で、〇〇や〇〇という地域資源が眠っています。失敗は許されません。あなたがその集落を任せられたら、誰を相手にどのようにプロデュースしますか？」
- ② 与えられた情報を基に、グループごとに議論してその地域に適した地域づくりのプロセスを構築します。地域住民が動き出したくなる、継続した取組に発展するシナリオづくりの技術を体感しながら学習します。
- ③ 最後に、実際の現場にプロデューサーそして地域住民や行政がどのように関わり、結果どうなったのかを講師が解説します。研修生が組み立てたシナリオとプロセスが、現場ではどのように作られ動いてきたのかを比較検証します。

#### 9. 「研修生自らの実践活動」とは、どういうことか。

「(3) 研修生自らの実践活動」では、研修で学んだことを実際に現場で実践する際、実践内容も含め、講師がサポートする形で進める予定です。

研修生自らの実践活動の進め方のイメージは、以下のとおりです。

- ① 講師は、「(2) 事例を基にした模擬演習等 (対面講義)」の期間中に、研修生に対し、実践したいこと等をヒアリングします。
- ② ヒアリングの内容を踏まえ、「(2) 事例を基にした模擬演習等 (対面講義)」の終了時まで、研修参加者と講師による話し合いで、実践予定の活動内容等を踏まえ、モデル研修生2名以上を決定します。
- ③ 「(3) 研修生自らによる実践活動」の初回のオンラインゼミでは、モデル研修生(実践者)に、活動計画と具体的実践内容を提示してもらいます。実践予定の活動内容については、参加者と講師による議論をかさねることで、より良いプログラムとなるようブラッシュアップします。各研修生も、講師にどんどん質問してください。
- ④ モデル研修生以外の研修生も、地元で何らかの実践活動に取り組んでもらいます。実践活動中は、講師に個別に相談を行うことができます。
- ⑤ 2回目のオンラインゼミでは、各研修生が実践状況を報告します。モデル研修生は実践活動の経過について報告を行い、他の研修生と講師を交えて、成功につながるポイントや、現場が動き出すポイントを学びます。講師は、各研修生に対してアドバイスします。

#### 10. 実践活動は、必ず実施しなければいけないのか。

講師の指導の下、比較的实践しやすい活動から応用的な活動まで、参加者の実情に合わせて実践活動を行ってください。

実際現場で活動すると、壁に突き当たる場面が多くあり、それを乗り越える技術を習得することが重要になります。オンラインゼミでは、自ら経験したリアルな事例を持ち寄って研修を進めることで、様々なケースに対応できる技術を学ぶ機会にしたいと考えています。

#### 11. 実践活動は、職場の同僚等と一緒に取り組んでもよいのか。

大丈夫です。研修生が単独で取り組まれてもよいですし、職場の同僚の方等と複数で取り組まれてもよいです。

#### 12. 受講生が一堂に会する場はあるのか。

検討中です。新型コロナウイルス感染症の状況等も踏まえつつ、可能であれば、そうした場を設けたいと考えています。

13. 実践コース（3）でともに活動する同僚等も、実践コース（1）のオンライン講義を受けることができるか。

基本的には参加者向けの講義となりますが、実践コース（3）でともに活動を予定している同僚の方等と一緒に視聴したいとのご要望がありましたら、事務局にご連絡いただければ対応します。

#### （Ⅳ. ネットワークについて）

1. 料金はかかるのか。

通信費は自己負担していただきますが、ネットワークへの参加料は不要とする予定です。

2. どのようなスタイルを考えているのか。

Web 上での参画スタイルや、SNS（フェイスブック）等、皆が利用しやすいスタイルを検討しております。

3. 講師が無料で相談にのってくれるのか。

できる限り無料で相談にのれる体制を整備したいと考えていますが、

- ・講師に謝金・旅費・宿泊費等が発生する場合
- ・講師を長時間拘束する場合

など、相談者が諸謝金等を負担する必要がある場合も想定されます。具体的には、ケースバイケースで講師とご相談いただくこととなります。

以 上